

日語「naru 表現」與中文之對應表達法的對比研究

蘇文郎

政治大學日本語文學系教授

摘要

本論文擬以筆者過去針對日語變化表達句所發表的研究成果為基礎，透過對比分析，剖析日語「ナル表現」的構文、語用、意義特徵與中文的對應關係。

探討子題依結果語的統語範疇、分下列3種分項進行。

- i. <名詞>ニ/ト ナル
- ii. <動名詞>ニ/ト ナル
- iii. <形容(動)詞>(連用形) ナル

相信所獲得的結論，對於日中兩種語言對比分析的理論與應用都有相當意義與價值，對於台灣的日語語法研究、教學與翻譯技巧提升能多所貢獻。

關鍵詞：變化表達句、naru、日中兩語、對應關係、對比分析

受理日期：2017.08.31

通過日期：2017.10.20

A contrastive study of change-of-state expressions “Naru” between Japanese and its Chinese correspondence–relations

Soo, Wen-Lang
Professor, Chengchi University, Taiwan

Abstract

The aim of this paper attempts to make a comparison between Japanese and Chinese languages, concerning the change-of-state expressions “naru” from the viewpoints of syntax and semantics.

The following patterns are included in this study:

- i .<Noun> ni/to naru
- ii .<Verbal Noun> ni/to naru
- iii .<Adj> ku/ni naru

I firmly believe the conclusions resulting from this study will be able to make some contributions to theory/application in contrastive analysis between Japanese and Chinese, and even to the strategies of second language teaching and translation.

Keywords: change-of-state expressions, Japanese, Chinese, naru, correspondence-relation

日本語のナル表現とそれに対応する中国語の表現形式の 対照研究

蘇文郎

政治大学日本語文学科教授

要旨

本研究では、筆者がこれまで日本語の変化表現について考察した成果に基づいて、日本語のナル表現が中国語と意味用法においてどのような対応関係を示すか、翻訳を通して探求する。

本研究では日中両語で最も複雑な対応関係を持つ

- i. <名詞>ニ/ト ナル
- ii. <動名詞>ニ/ト ナル
- iii. <形容(動)詞>(連用形)ナル

の3つの構文形式の変化表現を中心に考察を進めていく。

日中両語のこういう形態的、意味的特徴の根底にある構造を認識しておくことは少なくとも実際の教育現場において、教える側にとって必要しかも有益だと思われるし、文法研究においても変化表現の本質を解明する上でも大変重要だと思われる。

キーワード：変化表現、*naru*、日中両語、対応関係、比較対照

日本語のナル表現とそれに対応する中国語の表現形式の 対照研究

蘇文郎

政治大学日本語文学科教授

1. はじめに

1.1 本研究の背景

筆者はこれまで、“なる”を述語動詞とする「ナル表現」を形態、統語、意味の3つの側面から詳しい考察を行い、かなり具体的な成果を上げることができた。その中で動詞“なる”が持つ多義性に気付いて関連する限りで触れてきた。特に、蘇(2001)(2002)(2005a)(2005b)(2011)では、「～ニ／トナル」形式の表現においては、非常に複雑な意味・用法の広がりを見せていることが観察できた。

“なる”の基本義は普通は主体の何らかの「変化」のプロセスを述べる語彙項目として理解されるものであるが、以下の例から読み取れるように実際には変化を表す用法から変化を表さない用法へと意味転化する現象、つまり意味的派生関係も数多く見受けられた。

1. 肩の力を抜けばもっと体が軽くなるよ。(ノル)

只要肩膀放鬆身體就會變輕。

2. そのようにして僕は十八から十九になった。(ノル)

就這樣、我從十八歲變成了十九歲。

3. 「ここに来てもう四ヵ月近くになります」と直子はずづけていた。(ノル)

「來到這裡已經四個月了」直子繼續說著。

4. 「あなたまだ二十歳になってないでしょ？」(ノル)

「你還沒二十歲吧？」

5. 順序は朝とはまったく逆になる。(ノル)

順序和早上的完全相反。

6.そこは坂となっている。

那裡是坡道。

7.会議室はこの階段を上った二階になります。

會議室是這樓梯上去二樓。

8.この車両は女性専用となります。

這車廂是女性專用。

9.シーズンの折り返しとなる 68 試合目は打線に自信を付けさせる大事な節目となったはずだ。

球季的中間折返點的第 68 場比賽、應該變成了讓球員擁有自信很重要的關鍵點。

10.ママの弟で大学生になる叔父さんはトットちゃんの家に来ると…（窓ぎわ）

媽媽的弟弟、現在是大學生的舅舅、每次到冬冬家來時…

11.トットちゃんが小学校一年生なのにかかわらず、すでに学校を退学になった。（窓ぎわ）

冬冬才只是小學一年級就被學校退學了。

12.パパがほんとうにヴァイオリンがすきでそのために勘当というのになって、…（窓ぎわ）

爸爸真的很喜歡小提琴、但也因此被逐出家門、斷絕父子關係…

実質的变化の意味（例 1、2）を表すほかに、形式的変化¹（例 3～6）を表すものも含まれたことや、そして変化の意味を失い、もっぱら発話時における話者の心的態度（モダリティ）（例 7、8）や同位格関係（例 9、10）などを表すと思われる用法が数多くある。なお構文的には「ナル」が用いられている能動文であるが、受動的意味が含意されている用法（例 11、12）もずいぶん見うけられた。そして、

13.これじゃ、授業にならないということがおわかりでしょうか。

（窓ぎわ）

1)実質的变化とは主体のあり方の変化を表すもので、形式的変化とはある量、期間に達する、至るの意味を表すものを指す。

像這樣、實在不能上課、不知道您能了解嗎？

14. 食べ物だって、なんとかなるわよ。(窓ぎわ)

食物總是有辦法解決的。

(13)、(14) の下線部の「授業にならない」「なんとかなる」のように、変化としての意味解釈ができず、変化から可能へ意味転換する用法も少なからずある。

ところが、以上の日本語の文の中国語訳を見てみると日本語の「ナル表現」が中国語では様々な対応関係を見せていることが分かる。中国語では“變(成／為) + 結果補語”の表現形式で対応しているのは例文1と例文2だけである。(3)以下の各文は“變成～”や“成為～”による変化表現は一つも使われていない。このように翻訳を通して、ナル表現における日中両語の対応のしかたに大きいずれが存在していることが明らかである。

したがって、中国語話者にとっては日本語のナル表現の習得が困難であることが考えられる。そういう意味で、日本語のナル表現の意味を正しくとらえ、正確に使うために日本語自体は、言うまでもなく、中国語との対応関係について体系的に理解することが要求される。

日本語教育の立場から、中国語話者の母語による干渉で「ナル表現」の習得困難をもたらすことを事前に防ぐ意味でも、「変化」という共通概念の枠組みの中で、日本語についての体系的な考察の成果を踏まえて、日中両語の対応の実態を探ってみるのも台湾人の日本語学習上の問題解決の糸口になる。

なお、表現論的な観点でもよく知られていることだが、「スル」表現対「ナル」表現という区別がされることがある。従来、英語と日本語の表現構造を対比させ、<スル>型言語と<ナル>型言語というような表現の好みの差が指摘されてきた。この点においては、中国語と比較してみても、日本語の「ナル」型言語という特徴がさらに顕著に現れてくるのである。

1.2 本研究の目的

本研究は日本語のナル表現の意味特徴、そして、その中国語との対応関係を明らかにすることを目的とする。

研究方法としては文学作品における翻訳という観点を取り入れ、日中両語の対応のしかたを分析する。

2. “なる”の意味構造

2.1 “なる”の語彙的意味

“なる”の語彙的意味であるが、辞書にあたってみると、どの辞書にも文字通りの意味と同時に、文字通りではない、すなわち慣用的意味を載せている。例えば『広辞苑』5版では²「ナル」については文字通りの意味として「(1) 現象や物ごとが自然に変化していき、そのものの完成された姿を表す。①……②別のもの、状態にかわる」と記述されている。すなわち変化の意味を表す「ナル」の基本義は「あるものや状態からそれとは違うものや状態に変わる」ということになる。そして「XガY(名詞)ニ／トナル」形式の変化構文は、変化の主体「X」がある過程を経て、「Yニ／ト」で表される変化後の状態に至るといふ基本的意味を表す。ところが主体がなんら変化の状態を呈していないにもかかわらず、やはり「XガYニ／トナル」形式の構文をとっている前掲した(6)～(10)のような文がある。これらの文は「ある状態からそれとは違う状態に移行する」という基本義から大きく逸脱した非変化的用法である。

ナルの表す意味的特徴を認知文法論的に捉えると、ナルという動詞は「現象や物事が自然に変化する」というのが本義である。「以前と違った状態・内容になる。これより他の状態に移る。改まる」ことを「…にナル」「…とナル」の形で表される。なお、変化を表

2)『広辞苑』5版では変化動詞としての「なる」の意味について次の通りに記述されている。①以前と違った状態、内容にかわる。②ある状態にいたる。③その時刻、時期になる。④あるものの用を果す、また、ある役を演ずる。⑤成り果てる。⑥将棋で、王、金以外の駒(こま)が敵陣に入り、また敵陣から動いて裏返しになり、飛車と角行は元来の力のほかに金、銀の資格を併せ持ち、他の駒は全部金の力を得ることを言う。

すナル表現は、本来、主体の変化だけではなく、次のⅠ、Ⅱのような主体の新しい関係や状態の発生をも表すと考えられる。

Ⅰ. ある関係・状態が生じる

Ⅱ. 結果としてある数量・金額・時期・状態などに達する

すなわち、主体の変化を表すナル表現と主体の発生を表すナル表現は何らかの成立を表しているという共通点を持つことである。

2.2 ナル表現の構文形式

「ナル表現」は結果語の統語範疇によって、以下の5つのタイプに分けられる。

i. <名詞>ニ/トナル

ii. <動名詞>ニナル

iii. <形容(動)詞>(連用形)ナル

iv. ~コトニ/トナル

v. ~ヨウニナル

本研究では日中両語で最も複雑な対応関係を持つ i、ii、iii の3つの構文形式の変化表現を中心に考察を進めていく。

日中語の対応関係の検討に入る前に、まず中国語の変化表現の主な手段について簡単に触れておく。

2.3 中国語における変化表現の主な手段

中国語では変化を表す手段はいろいろあるが、形態的に大きく二種類に分けられる。一つは述語が変化動詞³によるもの、もう一つは文末にアスペクト助詞“了”をつける表現法である。前者は一般に「X V {成/為} Y」の構文をとる。次の例がこれにあたる。

15. 這個白姑娘，會成為咱們家的福星哪。(白狐)

この娘は我が家の福の神となりましよう。

16. 於是銀霜是白狐所幻化的說法就變成了一項不移的事實。(白狐)

3) 劉月華他(1988)では変化を表す「成為」などの動詞は関係動詞とされている。動詞後ろの「成」「為」などを「介詞」と解釈する。

そこで吟霜は銀狐が姿を変えたものだというのがゆるぎのない定説となってしまった。

17. 她真是化為白狐回歸山野了嗎？（白狐）

彼女が本当に銀狐になって野に帰ったのであろうか。

構造的には日本語の典型的な変化構文「XがY（名詞）{に／と}ナル」と対応しているものである。勿論日本語のこれに対応しない表現形式も数多くあるが、これについては次節で考察することにする。

次いで“了”の用法について触れておく。“了”の意味用法は大変多岐にわたっていて、簡単にまとめることは難しいが、機能上、構造上の特徴の違いに基づき、一般に動作動詞について、その動作の完了を示す“了”と、非動作動詞や形容詞、数量詞などについて、状態の実現、あるいは状況の変化を表す“了”の二つに分けられる⁴。

状態の実現、状況の変化を表す“了”はさまざまな述語文に用いられ、表す“変化”も多種多様である。ここでは日本語の変化表現との関連で主なものをいくつかとりあげる。

a) 述語が形容詞である場合

18. 花紅了。

花が赤くなった。

19. 天色已經暗了。

もう暗くなった。

b) 数量詞、時間、季節を表す用語が述語となる場合

20. 現在 11 點了。

もう 11 時になった。

21. 小女明年就二十歲了。

うちの娘は来年二十歳になる。

22. 春天了。

もう春になった。

c) 述語が“是”である場合

4) 文末の“了”は語気を表すはたらきもある。ここではこれについての言及は省くことにする。

23. 現在這隻狐狸是我的了。(白狐)

これでこの狐は私のものになったよ。

24. 從今天起，你就是這個學校的學生了。(冬冬)

今日からあなたはこの学校の生徒になった。

d) 述語が“有”である場合

25. 他有筆記型電腦了。

彼はノートパソコンを持つようになった。

26. 我有自己的房子了。

私は自分の家を持つようになった。

e) 可能を表す表現がある場合

27. 這孩子會走路了。

この子は歩けるようになった。

28. 我能開車了。

私は車の運転ができるようになった。

f) 変化の意味が内包されている動詞を述語とする場合や、補足語

“…下來、…下去、…起来”などがつく場合

29. 她們似乎安靜下來了。

女の子たちはおとなしくなったようだった。

30. 最近父親體力開始在衰退了。(白狐)

最近、父は体力が衰えてきた。

g) “不”“没”による否定文の場合

31. 他不去美國了。

彼はアメリカへ行かないことになった。

32. 這種貨，今天有但到明天就沒有了。

この品物は今日はあるが、明日になればなくなる。

以上の例文に示されているように、状況に変化が生じたことを表すのがこの“了”の主なはたらきである。動作の完了を表す“了”と比較すると、述語にはまったく制限がないといってよい。上の例文では、形容詞述語文(18, 19)名詞述語文(20, 21, 22)、コピュラ文(23, 24)の文末の“了”、そして否定文(述語動詞の前に否定副

詞“不”“没”のある文(31, 32)の文末の“了”はすべて“変化”を表す“了”である。

3. 翻訳に見る日中語の対応関係

3.1 「<名詞>ニ/トナル」構文の意味用法

1) 何かが他のものになる

① 日本語：「なる」＝中国語：“變”“變成”“變得”

33. それがだんだん大きくなって法人になって、農場も（ノル）
然後…變成法人、農場也加大了。

34. それが十秒になり三十秒になり一分になる。（ノル）
逐漸變成十秒、變成三十秒、變成一分鐘。

35. 運動と屋外作業のせいでしまった体つきになっていた。（ノル）
由於運動和戶外活動的關係、體格變得結實一點。

② 日本語：「なる」＝中国語：“成為”＋名詞

36. おさげは「大人の女の人になった」という“しるし”のはずだ。
（窓ぎわ）

冬冬認為辮子應該是“成為女人”的標誌。

日本語では上掲した33～36の例文に示されたような実質的変化、しかも変化の結果Yに視座を置く場合は、中国語でもいわゆる典型的対応の表現形式「X變成/成為Y」が用いられる。

③ 日本語：「なる」＝中国語：各動詞＋名詞

37. ぜんぶがパジャマになると、校長先生は、…（窓ぎわ）
等大家換上了睡衣、校長先生就…。

38. 朝になると雨はあがっていた。（窓ぎわ）
到了早晨雨停了。

39. 大人になったら切符を売る人になろうと思う。（窓ぎわ）
將來長大、也想要當售票員呢。

40. 一列になる。（窓ぎわ）
排成一列。

41. 裸になる（ノル）

裸身。

④ 日本語：「なる」＝中国語：名詞＋形容詞

42. 悲しい気持ちになる。(ノル)

心情悲傷。

43. 危篤になる。

病危。

2) ある地位や階級から別の地位・階級に変わる

① 日本語：「なる」＝中国語：動詞“升”＋“為/上”

44. 彼は課長から部長になった。

他由課長升為經理了。

45. 直子の方は単位を一つも落とすことなく二年生になった。

(ノル)

直子没有當掉任何學分順利升上二年級。

3) 結果としてある数量・金額・時期・状態などに達する

① 日本語：「なる」＝中国語：“變成”＋名詞

46. ピカピカの二年生になった。(窓ぎわ)

變成嶄新的二年級生。

② 日本語：「なる」＝中国語：“變”＋補語“得”

47. 僕はときどきひどく不安な気持ちになってしまう。(ノル)

我的情緒經常會變得很不安。

③ 日本語：「なる」＝中国語：“當” / “成為” / +名詞⁵

48. 外交官になる。

當外交官/成為外交官。

49. ピアニストになる。

當鋼琴家/成為鋼琴家。

④ 日本語：「なる」＝中国語：“成為”＋名詞

50. 偉い人になる。(窓ぎわ)

成為了不起的人。

5) 中国語における“當” / “成為”の使い分けであるが、“當”は自らの意志を以って「～になる」場合に、そして“成為”は結果として「～になる」のときに使う。

51. 一年生になった。(窓ぎわ)
已成為一年級。
- ⑤ 日本語：「なる」＝中国語：“做” / “為” / “扮” / “演” / +名詞
52. 四十歳で初めて父親に（と）なる。
四十歳才做父親/四十歳初為人父。
53. オバケになる。(窓ぎわ)
扮鬼。
54. 山伏になる。(窓ぎわ)
演修行者。
- ⑥ 日本語：「なる」＝中国語：“快／就要”～“了”⁶、“快要/快” / “就要”～“了”：ごく近い未来を表す。
55. 時刻は正午になります。
時間快到中午了。
- ⑦ 日本語：「なる」＝中国語：各述語
56. 娘は今年二十歳になる。
女兒今年二十歳。
57. キッチンには小型の電気のレンジと冷蔵庫がセットになった
ものが置いてあって、(ノル)
厨房還配備有成組的小型電爐和冰箱。
- 4) 物事が決まる
- ① 日本語：「なった」＝中国語：“變成”＋“了”(アスペクト)
58. 開催地が名古屋になった。
舉辦地變成了名古屋。
- ② 日本語：「なった」＝中国語：“改成”＋“了”
59. コンサートの演奏曲目はショパンになった。
音樂會演奏曲目、改成蕭邦的了。
- ③ 日本語：「なった」＝中国語：“成為”＋“了”(アスペクト)
60. 対戦相手は去年の優勝校になった。

6) “快～了”などは「もうすぐ～になる」という意味を持つ。

去年的冠軍校成為了比賽對手/比賽對手是去年的冠軍校

④ 日本語：「なる」＝中国語：動詞“改”＋補語“到”＋（時間）“了”

61. 出發は明朝になった。

出發改到了明天早上了。

⑤ 日本語：「なった」＝中国語：“獲得” / “得” / + “了”（アスペクト）

62. 高橋君が一等になった。（窓ぎわ）

高橋得到了第一名。

5) 身体の動きや姿勢の変化

① 日本語：「なる」＝中国語：各動詞

63. 横になる。

躺下。

64. 中腰になる。（窓ぎわ）

半蹲。

6) 生理現象や病気にかかる

① 日本語：「なった」＝中国語：“病〔了〕” “得〔了〕”

65. 彼は病気になった。

他病了。

66. 彼はガンになった。

他得了癌症。

② 日本語：「なる」＝中国語：“患” “罹患”＋補語

67. うつ病になる。

罹患憂鬱症。

③ 日本語：「なる」＝中国語：“〔生理現象〕＋動詞

68. はじめて生理になったとき（ノル）

第一次月經來的時候。

69. 下痢になる。

腹瀉。

7) ある関係や状態が生じる

① 日本語：「なる」＝中国語：“成為”＋名詞

70. マサオちゃんとお友だちになった。
 和他成為了朋友。
- ②日本語：「なった」＝中国語：各動詞＋“了”
71. 桜が満開となった。
 櫻花盛開了。
- 8) 習慣になる。
- ①日本語：「なる」＝中国語：“成”“了”（アスペクト）＋名詞
72. 彼は朝食前の散歩が習慣になった。
 早飯前散步、成了他的習慣。
- 9) ある物事がある働きをし、または何かの役に立つ
- ①日本語：「なる」＝中国語：“成為”
73. この『散歩』が、じつは、貴重な理科や、歴史や、生物の勉強になっている。(窓ぎわ)
 這種散步却也成為重要的理科、歴史、和生物的學習活動。
- ②日本語：「なる」＝中国語：“能～”“起～作用”“有～(功能)”等。
74. 町に出て働いた方がお金になるのよ。(窓ぎわ)
 到都市去工作比較有錢賺。
75. 多少の酒は薬になる。
 少量的酒、會起到藥的作用。
76. 先生の言葉が励みになる。
 老師的話給與我鼓勵。
- 10) 何かの仕組みや構造を表す
77. (トイレは)、いまのように水洗ではなく、そのころは、汲み取り式で、下は水槽になっていた。(窓ぎわ)
 不像現在的廁所是用沖水式的、那時的廁所下面是水槽。
78. トットちゃんのころのラジオは…てっぺんが丸くなっている、正面はスピーカーになっている。(窓ぎわ)
 冬冬小時候的收音機…頂上圓圓的、正面(是)擴音器。
79. 門の内側のすぐのところは駐車場になっている、…
 門の内側就是停車場…

11) ある状態が持続していることを表す。

①日本語：「～になっている」中国語：“動詞”＋著/“是”＋名詞

80. あとは、天井も床も、ぜんぶ、電車のままになっていた。

其他的、天花板、地板、也都保持著電車的模樣。

81. カー・ラジオがつけっぱなしになって、ワイパーには…

車上の收音機還開著，雨刷上夾了一張加油站的收據。

82. いろいろな色が、お花畑みたいな模様になっていたのだ。

各種各様顏色、就像是開滿著美麗花朵的花圃一樣。

77～79の例文が示す「何かの仕組みや構造」を表す場合には中国語はコピュラ文の「X是Y」で表す傾向がある。そして「ある状態の持続」、つまり変化の意味が弱いもの、また、単に今現在どういう状態にあるか、あるいはそれを単に静止状態としてとらえる場合には中国語は“動詞＋著”で表す。80～81がそれである。日本語では「～に／となっている」の形で表すのがこのタイプのもう一つの特徴である。

12) 思考結果

①日本語：「～になります」中国語：(結果) 名詞＋“了”

83. 「ここに来てもう四ヵ月近くになります」と直子はつづけていた。

直子繼續說著「我來這邊快四個月了」。

84. 彼女と知り合ってから3年になります。

我認識她已經3年了。

ある事象が起った結果の状態がある期間継続していることを、日本語では「日本語の勉強を始めて5年になります」のように複文を用い、そして主文が現在形で表されるのに対して中国語では単文で、しかもアスペクト助詞「了」で表すということである。83、84の例がこれにあたる。日中両語の発想の差が感じられる用法の一つである。

3.2 「<動名詞>二ナル」構文の意味用法

1) 状況に変化が生じ、新しい事態が発生する

① 日本語：「なった」＝中国語：動詞＋“了”

85. 猫虐殺事件の加害者が逮捕・起訴になった。

貓虐殺事件的加害者逮捕、起訴了。

86. 計画が変更となった。

計畫變更了。

87. 試合が延期になった。

比賽延期了。

88. この学校は廃校になった。

這間學校廢校了。

85～88の例文に示されているような「状況に変化が生じ、新しい事態の発生」の意味をを日本語では「<動名詞>になった」で表すのに対して、中国語では「状況に変化が生じ、新しい事態の発生」を確認したムード助詞“了”を用いられ、「逮捕・起訴になった」「変更となった」「延期になった」「廃校になった」などの状況の変化を表す「なる」の訳出に使用されている。

2) ある動作や作用をする

① 日本語：「なった」＝中国語：各動詞

89. 彼女は両手を床について前かがみになり、まるで吐くような格好で泣いた。(ノル)

她雙手支在地上往前彎曲、簡直像是在吐似地哭起來。

90. 腹ばいになる。(窓ぎわ)

匍匐。

91. 後ろ向きになる。(窓ぎわ)

臉朝後。

92. 大笑いになる。(窓ぎわ)

捧腹大笑。

3) ある関係や状態が生じる

① 日本語：「なった」＝中国語：各動詞/形容詞＋“了”

93. 富樫と弁慶が向かい合わせになった。(窓ぎわ)

富樫和弁慶兩人迎面相遇。

94. すっかり顔なじみになった。(窓ぎわ)

冬冬和収票的叔叔們很熟了。

4) 受動的意味を含意する

95. トットちゃんが小学校一年生なのにかかわらず、すでに学校を退学になった。(窓ぎわ)

冬冬才只是小學一年級就被學校退學了。

96. 「・・・なにしろ外食してるところをみつかっただけで停学になる学校なんだから」(ノル)

因為是個萬一發現到校外吃就會被停學的學校。

97. 勘当になる。(窓ぎわ)

被逐出家門。

98. 富樫と弁慶の芝居がそれでぶち壊しになるのだ。(窓ぎわ)

富樫和弁慶的對台戲就因冬冬的破壞而被停止。

5) 可能の意味を含意する

99. 「これじゃ、授業にならない、ということが、おわかりでしょう？」(窓ぎわ)

「像這樣、實在不能上課、不知道您能了解嗎？」

100. 義経が反抗したのじゃ、芝居にならないのだ。(窓ぎわ)

如果只是這樣一味的抵抗、那戲就不能演了。

例文 89～92 のように結果語に動名詞が来る場合、中国語では、その「動名詞になる」の組み合わせを動詞述語にして、89' ～92'

89' 前かがみになる → 往前彎曲

90' 腹ばいになる → 匍匐

91' 後ろ向きになる → 臉朝後

92' 大笑いになる → 捧腹大笑

のように、それを動的状態としてとられる表現となる。

3.3 「Y（名詞/動名詞）ニ／トナル」構文の意味内容と中国語との対応関係

日本語の「Y（名詞）ニ／トナル」「Y（動名詞）ニ／トナル」構文と中国語との対応関係をざっとまとめてみると次の表1になる。

表1. 「Y（名詞/動名詞）ニ／トナル」構文の意味内容と中国語との対照関係

表現形式 意味内容 対応関係	日本語	中国語
〔(人・生き物・自然現象・物) 名詞] になる	1) 変化を表す 2) ある関係が生じる 3) ある現象が生じる 4) 状態の持続 5) 賞の獲得、入賞する	〔典型的対応] 1. 變/變成/變為+〔名詞] 2. 成為+〔名詞] 3. 升為〔名詞] 4. 改為/改到+〔名詞] 〔非典型的対応] 5. 動詞 6. 是+〔名詞] 7. 得(了)/獲得〔名詞]
〔(動きや作用) 動名詞] になる	1) 身体の動き 2) ある出来事が起きる 3) 感情作用の変化 4) あるものが何かの役に立つことを表す 5) ヴォイスの意味 i. 可能の意味 ii. 受動的意味	〔非典型的対応] 1. 動詞 2. 有～價值 3. 起～作用 4. 能/可以+動詞 5. 被/受+動詞
〔(年齢・時期・状態) 名詞] になる	ある年齢や時期、状態に達する意味を表す	〔非典型的対応] 1. 名詞 2. 動詞 3. 形容詞 4. 快～了 5. 就～了
〔(身分・職業) 名詞] になる	職業、身分を担う意味	〔典型的対応] 1. 當 2. 成為 〔非典型的対応] 3. 做 4. 為 5. 扮 6. 演
〔病気、生理現象] になる	病気を患う意味や生理現象が生じる意味を表す	〔典型的対応] 1. 得+〔(病気) 名詞] 2. 罹患 〔非典型的対応] 3. 動詞

表1で分かることは、まず両語はナル表現において、「一対多」対応の関係を見せていることである。つまりナル表現の「名詞/動名詞になる」の一つの構文は中国語では20個以上表現形式で対応している。これは日本語のナル表現の「<名詞>に/となる」構文において非常に内容的に多種の関係を表すことに起因すると思われるほか、中国語では「変化」を表すのに形式的には典型的なタイプつまり“變

/變成/變為+名詞”だけでなく“動詞～”をはじめ“名詞”、“了”、“名詞+了”なども含めているため、日本語と中国語の対応関係を大変複雑なものにしてしまっているのである。

表1に示されたとおり、これらの多種の関係のうち、典型的対応を示す“變/變成/變為+名詞”形式で表されるのが一部だけであって、それ以外の非典型的対応形式で表わされるものがずいぶんと数多くあることが明らかになった。なかでも二重変化表現の「<動名詞>に/となる」における「なる」が、変更、中止、延期、廃校、退学などある状況からの変化を表す動詞の意味を持つ場合、本来中国語の動詞に置き換えた際、すでに各動詞にこうした発生、消滅など変化の意味合いが含まれているから、一般的に動詞述語“動詞～”で対応される。

もっとも日本語では現象を変化ととらえて表現される事態が中国語で変化としてではなく、事実として現象を叙述されていることは日、中の事態の成立に対する認識の違いが表現の違いとして現れるからだとも考えられる。

3.4 「形容（動）詞（連用形）なる」構文の意味用法

①日本語：「なる」＝中国語：“變”“變得”

101. でもそれと同時に深刻になるまいとも努力していた。(ノル)

但和那同時也努力不要變嚴肅。

102. 講堂は一瞬だけ静かになった。(窓ぎわ)

頓時、禮堂變得靜悄悄的。

103. 体が勝手に細くなってしまったんだ。(ノル)

是身體自己變瘦的。

104. 肩の力を抜けばもっと体が軽くなるよ。(窓ぎわ)

只要肩膀放鬆身體就會變輕。

101～104では先行する述語に「深刻だ、静かだ、細い、軽い」と、いずれも状態形容詞（形容動詞も含む）が使われている。これらの

表現は中国語では構文上「變<形容詞>」「<形容詞>了」にほぼ対応する表現であると見てもいい。変化動詞は「變」以外に「轉暗（暗くなる）」「翻新（新しくなる）」「發白（白くなる）」などのような変化動詞「轉、翻、發など」が使われることもある。

②日本語：「なる」＝中国語：各動詞

105. そのうちにカーブもだんだん少なくなって。(ノル)

不久轉彎逐漸和緩減少。

③日本語：「なった」＝中国語：各動詞＋補語

106. 胸が少し熱くなった。(ノル)

胸口有些熱起來。

107. あなたに憎まれたりすると私は本当にバラバラになってしまいます。(ノル)

如果被你憎恨的話、我整個人真的會支離破碎。

108. 理由はすぐに明らかになった。(ノル)

理由立刻就分曉了

④日本語：感情的変化の「なる」＝中国語：“感到～”“覺得～”あるいは“擔心～”“嫌～”“會傷心”“(感情形容詞)起/了”等

109. 直子のことがちょっと心配になってきたから。(ノル)

我有一點擔心起直子怎麼樣了。

110. そんな音を聴いていると僕は直子のことが可哀そうになった。(ノル)

一聽到那聲音我就覺得直子很可憐。

111. 永沢さんに質問してみた。こんなことを七十回もつづけていて、空しくならないのか、と。(ノル)

我試著問永澤兄。這種事情連續做上七十次難道不覺得空虛？

112. 僕はそれについて少し考えをめぐらせてみたが、面倒臭くなったので考えるのをやめて寮に戻り…。(ノル)

我對這點試著稍微思考了一下、但又嫌麻煩便不再想、而回宿舍去了。

113. この曲聴くと私ときどきすごく哀しくなることがあるの。

(ノル)

聽到這首歌、有時候我會非常傷心。

114. 淋しくなれば二人で抱きあって眠ったの。(ノル)

寂寞了就兩個人擁抱著睡覺。

115. 「そうだろうね」と僕は言った。…人々の笑い声や無意味な叫び声や大仰な表現がなつかしくなった。(ノル)

「大概吧」我說、…懷念起人們的笑聲無意義的喊叫聲、和誇張的動作表現。

109～115 の例文を見ると中国語では「變～」 「～了」以外に様々な表現で対応していることがわかる。前接した形容詞が感情、感覚形容詞である場合、中国語では文型選択に何らかの基準が働いたことが分かる。つまり 109～115 の文に対して、中国語はいずれも「變得 <形容詞>」の文型をとらない（いや、とれないというべき）ということである。

110" ×我變得直子很可憐

111 ×這種事情連續做上七十次難道不變得空虛？

112" ×我變得麻煩便不再想、而回宿舍去

113" ？有時候我會變得非常傷心。

114" ×變得寂寞了就兩個人擁抱著睡覺

115" ×變得懷念人們的笑聲、無意義的喊叫聲和誇張的動作表現。

これは日中両語間の表現上および文法上の大きなズレと言わなければならない。109～115 の各文では主語は感情、感覚作用を行う主体者を表し、目的語は感覚、感情作用の内容を表している。両言語間の表現上、文法上のズレを解明するにはまずこの二つの要素に対する考察が必要であろう。以上の感覚、感情形容詞文の構文は次のようになる。

<感情主> <感覚・感情作用の内容>

110' 僕は [直子のことが可哀そうだ] なる

- 111' あなたは [むなしい] ならないのか
 112' 僕は [(それを考えるのが) 面倒臭い] なる
 113' 私(は) [すごく哀しい] なる
 114' 私たちは [淋しい] なる
 115' 僕は [...叫び声や大仰な表現がなつかしい] なる

埋め込み文（括弧内）による感覚、感情作用が表すのは感情主（下線部）の感覚、感情の内容そのものであり、静的心理状態の描写である。「なる」をつけることによって感情主の感覚、感情作用を動的心理状態の変化としてとらえることになる。これに対して、中国語ではまず指摘しなければならないのは中国語において「可哀相になる」「むなしくなる」「面倒臭くなる」「哀しくなる」「淋しくなる」「懐かしくなる」などに対応する言い方は「感到～」「覺得～」などをつけて「覺得可憐」、「感到空虚」、「嫌麻煩」「會傷心」「寂寞了」「懷念起」などのように表現するという点である。以下の日本語の訳文から分かるように、

- 110' 我覺得直子很可憐
 a. (私には) 直子が可哀そうだ。
 b. 私は直子が可哀そうだと思う。
 c. 私は直子が可哀そうになった。

「覺得」「感到」は静的感情感覚作用（a、b）と動的感情感覚作用の変化（c）を表す働きを両方あわせ持っている。したがって、感情形容詞文を補文とする以上のような日本語の変化構文に対して中国語では「なる」に対応する「變得」を介さなくても、感情感覚作用の変化が表わせることになる。感情表現において静的感情感覚作用の描写のとき、日本語と違って、中国語は感覚動詞「覺得」や「感到」を介してはじめて感情主と感情感覚作用の内容が結ばれるのである。⁷この点は日中両語のこうした感情表現の変化構文の差異を考えるに当たって無視できないことである。

⁷蘇文郎（2002）参照

3.5 中国語では対応させることができない用法

以上の考察で分かったことは日本語の「なる」の対応形式とされている中国語の「變成～」には、様々な事態が経過して、その結果、ある状態に到達するという意味合いが強いということである。ところが下例(116～119)のような場合にはこれに当てはまらない。このような心的態度や丁寧さを表すモダリティ用法は中国語にはない。中国語は直接判断の表現形式のコピュラ文「X是Y」で対応する。

1) モダリティ表現

①推論的結果を表す「なります」

116. 全部で 7500 円になります。

總共是 7500 日元。

②丁寧さを表す表現

117. 会議室はこの階段を上がった二階になります。

會議室是這樓梯上去二樓。

118. この車両は女性専用となります。

這車廂是女性專用。

119. すみませんが、このロビーは禁煙となっています。

很抱歉，這大廳是禁煙的。

4. 終わりに

以上の考察で分かったことは日中両語は変化表現においてその意味用法が「一対多」の対応関係を見せていることである。

翻訳を通してみれば「Y (名詞/動名詞) ニ／トナル」「形容(動) 詞(連用形) なる」といった形式の変化表現では日中語の意味用法が“一対多”の対応のしかたを示し、そして非常に対照的な対応関係を示すことが分かった。語彙レベルでは、日本語の「なる」に対応する中国語の「變成」「成為」「(変化動詞) 為」は原則として文字通りの意味しか表さないのに対して、日本語の「なる」は「変化」

を表す以外にしばしば一種の付加的意味を帯びている。こうした語彙の実質的意味が薄れ、機能的意味づけが述語形式として固定化し、モダリティ形式化した用法も数多く存在している。

日中両語のこういう形態的、意味的特徴の根底にある構造を認識しておくことは少なくとも実際の教育現場において、教える側にとって必要しかも有益だと思われるし、文法研究においても変化表現の本質を解明する上でも大変重要だと思われる。

日本語教育の立場からも日本語の個別的な特徴をはっきりさせ、対応する中国語を対照言語論的に考察し、日本語の教授にあたって積極的に取り込むべき課題の一つだと思われる。

参考文献

- 安達太郎（1997）「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化部紀要』第4号
- 池上素子（2002）「変化を表す「なる」—前接する語との共起制限を中心に」『日本語教育』112号
- 池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学』—言語と文化のタイポロジーへの試論—大修館
- 大塚望（2008）「形容詞・形容動詞する」文の構造と意味」『日本語日本文学』18号創価太学日本語日本文学会
- 加藤重広（2003）『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 小泉保他編（1989）『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
- 香坂順一（1982）『現代中国語辞典』光生館
- 小谷博泰・原田登美（1995）「変化表現の周辺」『甲南大学紀要 文学篇』95
- 佐藤琢三（1997）「ナルの表現と丁寧さ」『文教大学国文』26
- 佐藤琢三（2005）『自動詞文と他動詞文の意味論』笠間書院

- 鈴木重幸（1966）日本語の動詞のすがた（アスペクト）について」
ひつじ書房
- 関秀一（2010）「日本語コトニナル表現とそれに対応する中国語の
対照研究」『国際文化研究』16号 東北大学
- 蘇文郎（2001）「変化表現について一考察」『東呉日本語教育学報』
24号
- 蘇文郎（2002）「翻訳を通して見た日中語における変化表現の対応
関係」 『東呉日本語教育学報』25号
- 蘇文郎（2005a）「ナル」の多義構造 『台大日本語文研究』第8期
- 蘇文郎（2005b）「変化構文における意味の受動化現象をめぐって」
『台湾日本語教育論文集』第九号
- 蘇文郎（2011）「変化構文における「<動名詞>ニ／トナル」の一
考察－統語的特性と語用論の観点から－」『政大
日本研究』第八号
- 谷口秀治（1997）「テイル形に関するムード的側面の考察」『日本
語教育』92号
- 田中寛（1995）「モダリティに関する動詞述語表現」『窪田富男教
授退官記念論文集』専門教育出版
- 田野村忠温（2010）「コピュラ再考」『コーパス日本語学の新展開』
文部科学省研究費補助金特定領域研究「日本語
コーパス」日本語班
- 中右実（1994）『認知意味論の原理』大修館
- 仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 藤田益子（2002）「～なります」考－日中比較対照の観点から－
『新潟大学留学生センター紀要』第4号
- 古川裕（2012）「現代中国語における<変化>事象の捉え方と構文
特徴」『日中理論言語学の新展望②意味と構文』
影山太郎・沈力（編）くろしお出版
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版
- 宮腰幸一（2006）「結果句の定義と分類について－意味・機能的ア

プロローグ」『日本語文法』7 卷2号

劉月華他（1988）『現代中国語文法総覧』（上）（下）くろしお出版

- 用例出典：①（ノル）『ノルウェイの森（上）』村上春樹 講談社
②『挪威的森林（上）』頼明珠訳 時報出版
③（窓ぎわ）『窓ぎわのトットちゃん』黒柳徹子講談社
④（冬冬）『冬冬的学校生活』李雀美訳 大佳出版社
⑤（白狐）『白狐』瓊瑤著 皇冠叢書
⑥『銀狐』しばたまこと訳 現代出版